

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 べにばな)

事業所番号	0670100940		
法人名	(株)東北医療福祉システムズ		
事業所名	やすらぎ苑山形		
所在地	山形県山形市東山形1丁目4-12		
自己評価作成日	平成 29年 12月 19日	開設年月日	平成 13年 1月 4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日体操や歩行運動を日課にし、歌やゲームといったレクリエーション活動、苑外の活動(ドライブ、散歩、買い物、外気浴等)、食器拭きや食材切りや洗濯物たたみ等の家事活動等を通して活気的な生活が送れるよう支援させて頂いております。
また、お花見会やお祭り会等の行事を通してボランティアによる歌や踊り演奏等を披露して頂き、利用者様に楽しんでもらえるよう取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

年齢とともに日常生活機能の低下・認知症が進行する中で、いま出来ること・出来そうなこと・出来ないことをしっかり把握して利用者が生き生きと暮らしていけるよう支援しています。毎日体操や歌・ゲームなどレクリエーション活動を行い、食事作りの手伝いや後片付け、洗濯物たたみなどの家事を日課としています。公園への散歩やドライブ・買い物など外出時には挨拶を交わし外の空気に触れて気分転換し、花見会や夏祭りではボランティアの踊りや歌・演奏で笑い喜び楽しんでいます。さまざまな活動や行事を通して利用者が生きがいを持ち、笑顔で安心して暮らせるよう職員全員で支援に取り組んでいる事業所です。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	平成 30年 1月 26日	評価結果決定日	平成 30年 2月 16日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に理念を唱和している。全職員が共有し、日々の業務に従事している。	「利用者の尊厳を保ち、地域の中で安心して楽しくその人らしい生活が送れるよう、職員一人ひとりが明るく創意工夫しながら新しい発見に努める」ことを常に念頭に置き、毎日の関わりの中で実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事の際は回覧等で参加を呼びかけている。地区の芋煮会に参加したり、資源回収に協力している。	開設以来17年の間地域に馴染み、いも煮会などに誘いを受け事業所夏祭りや花見会などに地域の人たちが来るなど交流が深まっている。散歩時の挨拶や避難訓練での協力、公園掃除や資源回収などへの参加を通して地域の理解が進んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、認知症についての理解を広めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、利用者の現状や活動を報告。活発な質問や意見をもらい、サービスの向上に活かしている。	会議では利用者状況や行事等の取組み、ヒヤリ・ハット等の報告を行い意見や助言をもらっている。地域から町内会長・民生委員を始め介護相談員や福祉協力員等がメンバーとして参加し、情報交換して協力を得ている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員に様々な時間で訪問してもらっている。報告書は回覧し、情報を共有している。	市担当者とは運営推進会議報告などの機会を捉えて相談や指導・助言を受け、地域包括支援センターからは入居者情報を得ている。毎月訪問してくれる介護相談員からの気づき報告は職員も共有して支援に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	夜間以外は玄関の施錠は行わず、センサーと常に所在確認で対応している。居室内で転倒の恐れがある利用者は、家族の了解を得てセンサーを設置している。	リビングには職員が必ずいるようにして利用者を見守り、所在確認しながら安全を確保している。職員全員が身体拘束や虐待のないケアについて学び、どうすれば利用者が自由に安心して安全に暮らせるかを考え支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンスや日々の生活の中で、身体の変化や内出血等の情報を共有、確認して防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去に学ぶ機会があったが、全職員の理解は不十分と思われる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	主に管理者が入所時に家族へ十分に説明し同意を得ている。入所後の状態変更等で説明の必要性が発生した場合には、管理者より説明がなされている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置したり、面会等で家族が気兼ねなく話す事が出来るよう心掛けている。また、利用者の思いを察する努力をし、運営に反映させられるよう努めている。	毎日の関わりの中で利用者の言葉や表情から思いを汲み取り、また家族等からは面会時などに苑での生活の様子を伝えながら意見や要望を管理者が直接聞き、職員にも周知し出来ることにはすぐ対応している。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者とは随時、また、月に一回の会議の時には代表者も交え意見交換の場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者を通じて勤務状況を把握し、会議や個人面談等で職員の思いや意見を聞く機会を設けている。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が個々の経験年数等に応じた研修への参加を促し研修後の報告を会議等で行ったり、また社内研修も実施し全員の知識・技術の向上に努めている。	全職員が年1回は経験や技量に合わせた外部研修に参加している。本社幹部も参加する毎月のミーティングで研修内容を報告し伝達することで自身の向上だけでなく全員のレベルアップに繋げている。また派遣講師を招くなど内部研修の充実も図っている。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡会主催の研修や訪問研修で同業者との情報交換に努め、参加者から全職員に報告し回覧することで質の向上を図っている。	年4回の管理者会議や中堅職員研修・計画作成担当者会議などで他事業所と交流の機会を持ち情報交換に努めている。交換研修では取り組みの違いなど気づきを報告し、サービスの向上に繋げている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	関係者や家族からの情報を出来る限り収集し、事前面接で利用者が安心出来るように努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始段階から十分な説明を行い、家族の要望や思いを受け止め、安心して相談できるような関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	希望者の要望を聞き、必要であれば他施設の紹介や案内を含めた対応を行うようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段の会話や家事活動の中で、お互い学び合う気持ちで共に過ごし、支え合う関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族のつながりや思いを大事にし、共に支えられる関係作りをしている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や知人の面会や外出があり、馴染みの関係が継続出来るよう家族と協力して支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の心身の状態を見守りながら、利用者同士のかかわりが円滑になるよう配慮・声掛けし支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先の病院や施設へ主に管理者が訪問したりする事で、出来る限り関係を断ち切らない様に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話から本人の思いを汲みとれるように働きかけている。表出が困難な場合は行動や反応、家族からの情報を元に把握に努めている。	お茶の時間など利用者がゆっくり寛いでいるときの何気ない会話の中から思いや意向を聞き、表出出来ない人は家族等からの情報や表情・しぐさから汲み取っている。ケース記録に記入してカンファレンス会議で共有し支援に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の協力を得ながらアセスメントを作成し、出来る限り把握できるよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝夕の申し送り、介護記録や伝言ノート等を使い把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者がモニタリングを行い、カンファレンス時に全員で見直し介護計画を作成している。現状の変化等があった場合はその都度話し合い、検討している。	その人が出来ること・出来そうなことを維持し、伸ばすことを大切に考えてプラン作成している。思いを受け止め一人ひとりが生き生きと暮らせるよう、毎月ケース記録等や担当者のモニタリングをもとに職員全員で話し合いプラン見直しに繋げている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録やチェック表等を活用して情報を共有し、実践や介護計画の見直しにつなげている。			
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方々との交流を通して楽しく暮らせる様に連携を取って支援している。			
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の往診を二週間に一回実施し現状の報告や相談をおこなっている。又、体調変化の際は受診支援を行い、家族の協力を得ながら適切な医療を受けられるように支援している。	ほとんどの利用者は月2回往診がある協力医をかかりつけ医としている。往診時看護師と管理者が事前に健康状態の報告や相談を行い、適切な受診に繋げている。変化があれば家族等に連絡し信頼と安心に繋げている。		
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師がおり、異変や異常時は状態報告し指示を受け対応している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院中は、家族や病院関係者との情報交換を密に行い、早期に退院できるように努め、又、安心して治療が出来るように支援している。</p>		
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>かかりつけ医と連携を取りながら取り組んでいる。必要な方には終末期同意書を取り交わしている。</p>	<p>重度化や終末期支援について本人・家族等の意向を確認し、必要に応じて終末期同意書をもっている。かかりつけ医の協力のもと状態変化があれば家族等と話し合い最期まで最善の支援ができるよう職員全員で取り組んでいる。</p>	
33		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>社内研修を行ったり、カンファレンス等で疑問や不安な点を解消できるように話し合っている。</p>		
34	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年二回、全員参加の避難訓練を実施している。地域の方の参加もあり、協力体制につなげられるよう取り組んでいる。</p>	<p>職員全員が避難訓練に参加し初期消火・通報・避難誘導などの手順や動きを確認している。地区防災訓練の参加などを通して災害時に相互協力が得られるよう取り組んでいる。</p>	<p>地域と災害時の協力関係構築を進めているが、避難訓練への近隣住民の参加協力など更なる取り組みに期待したい。</p>
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
35	(14)	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>個人の誇りやプライバシーを損ねないよう言葉遣いや対応に配慮している。気になる言葉遣いや対応がみられた場合はカンファレンス等で確認し合っている。</p>	<p>利用者の生活歴や人生観を認識し、日々の生活の中で敬いの心を持って関わっている。職員の対応で気になる点はその都度注意し、誇りや自尊心を損なわないようケアに取り組んでいる。</p>	
36		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>一人一人に合わせて声をかけ、思いや希望を汲みとれるように努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の気持ちを尊重しながら一人一人のペースに合わせた対応に努めているが、身体介護の方が多くなり施設の決まりや職員の都合を優先してしまう事もある。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせた衣替えと衣服が取り出しやすいように整理に努め、外出や行事の時にはおしゃれが出来るよう配慮している。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の食べ方やペースに合った食事を楽しめるように心掛けている。野菜の皮むき等の準備や片付け、食器拭き等を出来る方をお願いしている。	献立に希望を取り入れ利用者の手伝いをもらいながら調理して、量・形態を変え持病のある方は玄米食にするなど一人ひとりに合わせた食事を提供している。「刺身の日」や「ラーメンの日」は好評で、またデッキでの食事も気分転換となり喜ばれている。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者の好みや量、形態(トロミ剤使用や刻み食)を考慮している。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず声掛けで実施している。必要な方は介助で行い、義歯を夜間預かり洗浄剤を使用して清潔保持に努めている。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンや状態を把握したうえでケアを行い、排泄の自立支援に努めている。	チェック表で一人ひとりのパターンを把握し、その人に合わせて声掛けしてトイレに誘導し自立に繋げている。自力排泄を目標に、羞恥心やプライバシーに配慮してさりげなく誘導し不快感のないケアに努めている。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操と歩行運動、野菜中心の献立や乳製品の摂取などで対応している。極度に排便が見られない方には必要時に下剤を使用している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	日中の決められた時間の中で対応しているが、好みの温度や順番で入れるように支援している。	体調、希望する時間や湯温・入浴方法に合わせて無理強いすることなくゆっくり入浴を楽しめるようにしている。スキンケアを取りながらの職員との会話は本音を聞ける良い機会となっている。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の体調や状況に合わせた休息や就寝が出来るように対応している。季節に合わせた室温の調整や寝具を選択し、好みの明るさで休めるように配慮している。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録ファイルに薬の説明書を綴じて常に確認出来るようにしている。処方の変更があった時には専用のファイルに記録し迅速に確認出来るようにしている。			
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握し個人の嗜好品や楽しみごとに対応できるように努めている。天気の良い日等は外出や散歩、ドライブ等で気分転換できるように支援している。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の気分や希望に沿った外出支援を行っている。日常的に心身の活性化に繋がるように日々取り組んでいる。	普段の買い物や散歩、一時帰宅・墓参など希望に沿った支援を行っている。花見見物や紅葉狩りなどのドライブは自然に親しみ気分転換し、年一回の家族も一緒の日帰り温泉旅行は子供達と和やかに会話し、ゆっくり出来る良い機会となり皆から喜ばれている。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金としてほとんどの利用者が施設管理となっている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話には本人が話せるよう取り次いでいる。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには観葉植物や生花を飾り、季節を感じる事が出来るような装飾をしている。又、普段の写真も定期的に変えながら掲示している。向かいが公園のため四季折々の景観を楽しめる。	広いリビングで利用者は植物や飾りつけで季節を感じ、テーブルやソファでラジオを聴いたり職員と会話をしながら思い思いに寛いでいる。春は室内に居ながら公園の花見もでき、季節の変化を楽しめる場所となっている。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士で会話できるよう席を近づけたり、居室に案内したりして一人でゆっくり休息できるようにしている。			
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁に設置したボードに家族との写真や好きな芸能人のポスターを貼るなどして、居心地良く過ごしやすい空間づくりをしている。本人が使い慣れた日用品を置く事で自分の場所と覚えてもらえるようにしている。	利用者の状態によって介護用ベッドを使い、使い慣れた寝具で安眠し思い出の写真やメッセージで和み心地よい居室となっている。利用者と一緒に清掃や整理整頓して安全な暮らしが出来るように努めている。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口に表札、トイレの表示を見やすくしている。洗面所と玄関に椅子を配置し、環境面での自立支援に繋がるようにしている。			